

## 皮膚悪性腫瘍指導専門医についてのよくある質問

| 目次          | 頁番号 |
|-------------|-----|
| 受験・試験について   | 2   |
| 受験・申請について   | 3~4 |
| 受験・診療実績について | 4~5 |
| 更新・診療実績について | 5~7 |

## <受験・試験について>

Q 試験はどのように行われますか？

A 筆記試験と口頭試問によって合否を判定します。皮膚悪性腫瘍の標準的な診断法、治療法、緩和ケア、臨床試験などについて後進の皮膚科医を正しく指導できる資格があるかどうかをチェックします。皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインなどが参考になるでしょう。

Q 筆記試験はどのような問題が出題されますか？

A 過去の問題を参照して下さい。

Q 口頭試問ではどのようなことを聞かれますか？

提出された審査書類を基に、以下のような内容についてチェックします。

- A
1. メラノーマ、有棘細胞癌、基底細胞癌、乳房外パジェット病の手術をむらなくこなしているか。
  2. 原則として鼠径と腋窩リンパ節郭清を自ら執刀できるレベルが求められているが問題ないか。なお、腋窩リンパ節郭清に関しては努力目標となります。
  3. 手術の適応（他の治療法との比較検討）を正しく判断できるか。
  4. 術前から術後までの手術計画を正しく立てられるか。
  5. 化学療法の経験は十分か？ いろいろな種類のレジメンをこなせるか。
  6. 治療困難例に対する集学的治療や緩和ケアの経験は十分か。

## <受験・申請について>

Q 依頼原稿は原著論文として申請可能ですか？

A 依頼原稿であっても、論文形式であれば申請可能です。

Q 業績目録について、学会発表及び論文発表が併せて7報以上とありますが、学会発表の内容と論文発表の内容が同じ内容、あるいは、同じ症例報告の場合でも2報としてもよいですか？

A それぞれ別々のものとしてカウントして構いません。

Q 大腸癌などに使われる分子標的薬の副作用に関するシンポジウムなど、直接悪性腫瘍にかかわらないものも学会発表や論文発表の業績として申請してもよいですか？

A 含めても問題ありません。但し、皮膚悪性腫瘍を主題とした筆頭論文と学会発表が1編（1回）必須です。

Q 共著論文を執筆しました。これは筆頭著者の1編として申請可能ですか？

A 筆頭著者であれば、認められます。

Q ○○学会雑誌に論文を投稿し掲載されました。これは申請可能ですか？

A 論文形式であり筆頭著者であれば認められます。

Q 認定施設の教育医と連携を取っている場合は、一人医長であっても、受験申請は可能ですか？また、診療実績も一人医長施設のものを提出可能ですか？

A 可能です。

Q 認定研修施設でない教育医でも、教育医として認められますか？

A 認められません。

## <受験・診療実績について>

Q 光線性口唇炎の疾患を経験しましたが、それは悪性腫瘍の範疇に入る疾患として考えてよいですか？

A 前がん症の1つであり、悪性化について記載していれば申請可能です。

Q インターフェロン $\beta$ のみ使用している患者さんの症例をがん薬物療法の経験症例として申請可能ですか？

A インターフェロン $\beta$ の局注に関してはがん薬物療法の経験症例として認めていましたが、平成29年度からは新規・更新とも認めないことといたします。

Q がん薬物療法実施記録のTNM分類の部分ですが、これはがん薬物療法開始直前の病期ですか？初診時の病期になりますか？

A 初診時でお願いします。その後進行した場合は、次項のがん薬物療法を開始した理由の欄に記入してください。

Q 同一施設の受験者が執刀医として提出した手術症例を経験症例として使用してもよいですか？

A 指導的助手として参加している場合は可です。同一手術は執刀医と指導的助手の2名のみ経験症例として使用可能です。

Q 同一施設の受験者ががん薬物療法経験症例として使用した症例をがん薬物療法の経験症例として使用することは可能ですか？

A 時期が異なった別のレジメンなら同一症例でも可能です

Q 腋窩リンパ節郭清は他科と共同で行っていますが、申請はできますか？

A 原則として鼠径と腋窩リンパ節郭清を自ら執刀できるレベルが求められていますが、腋窩リンパ節郭清に関しては努力目標となります。手術症例および実施記録には鼠径郭清の症例を1例含めてください。

## <更新・診療実績について>

Q 診療実績一覧で、「1. 同一患者症例は除く」とありますが、ある患者に手術を行い、その後しばらくして転移が出現したためがん薬物療法を行った場合、手術症例とがん薬物療法症例にそれぞれ記載してもよいのでしょうか？

A 同一患者であっても、1手術症例+1がん薬物療法症例として、記載は問題ないです。

Q がん薬物療法施行について、主治医ではなく、同施設チームの一員として関わった症例をがん薬物療法症例に含めてもよいのでしょうか？

A 主治医以外でも認められます。

Q がん薬物療法施行について、初診日が皮膚悪性腫瘍指導専門医取得日よりも以前であり、現在に至るまで引き続きがん薬物療法を行っている症例を、更新の際のがん薬物療法症例に含めてもよいのでしょうか？

A 投与開始日が更新期間内であれば認められます。

Q がん薬物療法施行について、ニボルマブ、イピリブマブ、ベムラフェニブを用いた治療もがん薬物療法施行例に含めてもよいのでしょうか。

A ニボルマブ等の新薬治療は認められます。

Q 学会出席単位に、「総会ならびに同支部学術大会」が条件付きで10点という点数で掲載されております。この場合、共同演者として出題した場合でも出席単位を申請することはできるのでしょうか。

A はい、共同演者であっても出席単位を申請することは可能です。

**Q** インターフェロンβのみ使用している患者さんの症例をがん薬物療法の経験症例として申請可能ですか？

**A** インターフェロンβの局注に関してはがん薬物療法の経験症例として認めていましたが、平成29年度からは新規・更新とも認めないことといたします。

**Q** 更新について、手術症例要約5例の提出は、局麻のBCC5例でも問題はないでしょうか。

**A** 問題ありません。